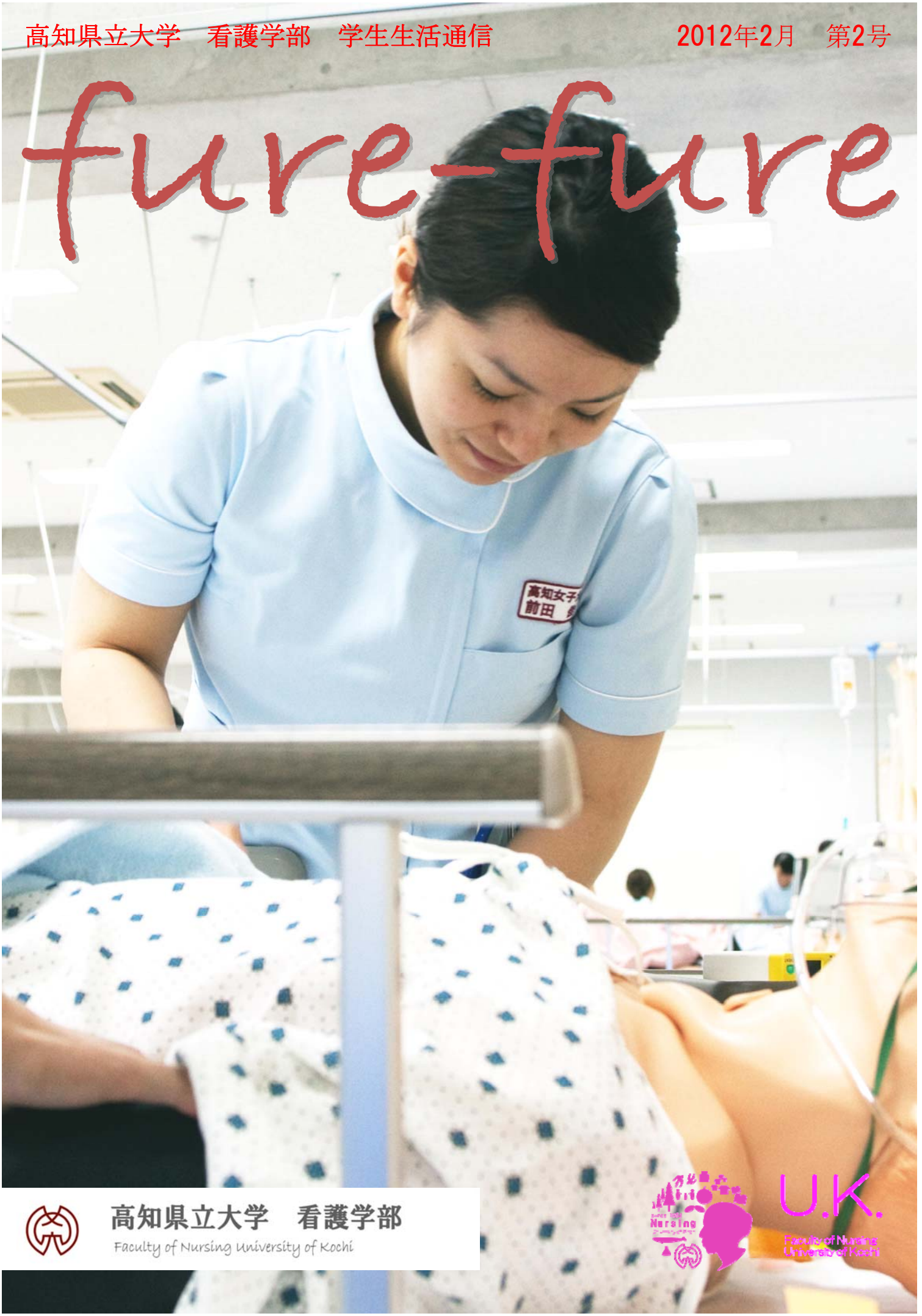
高知県立大学　看護学部　学生生活通信　2012年2月　第2号

fure-fure



高知県立大学　看護学部
Faculty of Nursing University of Kochi

副学長　野嶋　佐由美

高知県立大学看護学部からご家族の皆様へのお知らせ第2号です。学生生活通信を“fure-fure”と名付けたのは、大学そして看護学部が、学生さんの前向きな取り組みに対して”フレーフレー“と応援し、また、くじけそうな時にも”フレーフレー“と、学生さんの気持ちに添うことができればと願ってのことです。平成23年度も、それぞれの学生さんが一年分の学びと成長をしっかりと手に入れました。1回生は、はじめは長いといっていた授業や大学生生活にも慣れ、アルバイトやボランティアなども要領を得てうまくできるようになりました。2回生は看護学部の伝統の“クリスマスパーティ”を見事に企画・運営し、参加した皆様からお褒めの言葉を頂きました。そして、夏休みの真っただ中の看護基盤実習、そのなかで初めて看護学生として患者さんを受け持たせて頂き、看護の楽しさや難しさを味わいました。3回生は、本格的な臨床看護実習と通常では4回生で行う地域看護の実習を、看護師さんや保健師さんに指導して頂きながら終了し、看護専門職としての“顔”がみえてきました。学生さんは今、実習が終了してほっとしていることでしょう。しかし、卒業論文作成への取り組み、就職活動、国家試験の勉強と次の新たなる挑戦が待っています。4回生は、実習、卒論、就職、国試と、多くの課題を克服し、ひとりの人間として、看護師として成長の軌跡を歩んでこられもうすぐ卒業式を迎えます。さすがは4回生と感嘆の言葉が学内外の多くの方々から聞かれ、私たちは何度もうれしい思いをさせていただきました。

一人ひとりの学生のこの成長の軌跡をしっかりと支えてくださっているのは、ご家族、保護者の皆様であると、私たちは感謝しております。教員一同も、皆様方とともに学生に“フレーフレー”と心から声援をお送り続けたいと思います。

高知県立大学キャリアセンター　　職員　安岡　佐恵子　　平田　貴子

高知県立大学キャリアセンター（愛称：ワクワクWork！！）では、担当教員と共に、就職活動の指導・支援をしています。また、活動時期に合わせた様々なガイダンスも実施しています。ワクワクWork!!内には、病院等の情報や求人だけでなく、先輩方が残してくれた活動報告書なども閲覧できるようになっています。また、就職された先輩からのメッセージや内定先の一覧なども掲示しています。

スタッフは2名常駐しています。年次を問わず、就職活動に関する悩みや不安などの相談に応じたり、履歴書の添削や模擬面接も実施しています。

看護学部生は、一人ひとりが将来の夢を持ち、悩み迷いながらも、しっかりと進路を決め、それに向かって頑張っています。私たちは、学生の皆さんが、安心して就職活動に取り組めるよう、一人ひとりにきめ細やかな指導・サポートをしていきたいと思っています。

1回生

本学では、毎年学生主体による大学祭（10月22・23日）を開催しています。本年は、共学化の初年度として、男子学生も加わり、躍動感あふれる新たな賑わいが加わりました。看護学部から1回生は毎年参加し、今年は、「高知県立看護学部」をプリントした揃いのTシャツを全員が着て「から揚げとフライドポテト」の模擬店を出しました（ほぼ完売）。この大学祭への参加を通して、チームワークの大切さの実感、大学生活の楽しさとともに高知県立大学生としての意識の高揚も聞かれるなど、意義のある体験としてクラスの纏まりも一段と進みました。

一方、授業では、前期の様々な経験を生かし、より主体的な学習行動も培われつつ、昨年12月には、初めての実習「ふれあい実習」に参加し、貴重な体験を得ております。このように1回生は、看護学部生として質実ともに看護の世界への理解を深めつつあり、これからも学生の成長をみまもり応援をしていきたいと思います。

2回生

12月に、恒例の看護学部クリスマスパーティの企画・運営を行いました。今年は学生数の増加に伴い、初めて体育館で開催しました。『仲間～夢に向かって前進～』というテーマのもと、それぞれの回生がスタンツを披露し、とてもアットホームで楽しいクリスマスパーティになりました。2回生は会場の飾り付けや音響を整えて、ケーキや飲み物の準備など、協力して立派にホストを務めました。また、国家試験を前にした4回生にアルバムをプレゼントしました。このクリスマスパーティを通して、大きく成長した2回生の姿をとても頼もしく感じました。

学業では、看護に関する専門的な講義が増え、とてもハードな講義と試験の日々でした。そのような中、それぞれが自分で時間をやりくりしながら、大学祭やボランティアにもチャレンジし、充実した学生生活を送りました。

3回生

11月から1月までの間、急性期・慢性期実習が各3週間ありました。急性期・慢性期実習では、病棟実習だけでなく、外来やICU、手術室での実習が加わります。担当させていただく患者さんのことを病気だけでなく、これまでの生活や病気をしたことによる思いなど総合的に理解したうえで、どのような看護が必要なのか、看護師としての役割は何かなど、実習期間中は悩み続ける日々でした。しかし、臨床現場で実習指導者の方に指導を受けながら学生自身が考えて実施できた看護によって、患者さんから感謝の言葉やこれからの療養に対して意欲的な言葉が聞かれると嬉しく、また今後の看護者としての自分がイメージできるようになることで、実習前と違って少し引き締まった表情となり、成長を感じました。

後期は実習だけでなく、学内日には講義もあることから、ハードな毎日を送っていましたが、体調を崩すことなく、乗り切ることができました。現在、地域看護実習にがんばっています。

4回生

学生は、4年間の様々な体験を通して、一人一人がその人らしい看護の有り様を見いだしてきました。そして、将来の夢に向かって、看護専門職として確実な一歩を踏みだしています。

12月2日・3日は、第31回看護科学学会学術集会が、高知県で開催されました。看護科学学会は、看護分野の専門学会としては、日本で最大規模の学会であり、全国から2424名の看護職が参加しました。高知県立大学看護学部が中心となって、主に高知県内の学校・病院等の方々と協働して企画運営に取り組みました。当日は、4回生もボランティアとして大活躍をしました。今回の学術集会へのボランティアとしての参加は、看護専門職として発展していく学生にとって、大変貴重な体験でした。看護学の発展のために、実践や研究をとおして一人一人が貢献できることを学ぶ機会となりました。

教育の工夫

本学部では平成18年4月より助産師教育課程を始め、平成23年3月には助産コース1期生4名が助産師、看護師、保健師の3つの国家試験に合格し、現在、助産師として病院に勤務しています。また、助産コース2期生もこの2月に国家試験を受験し、3月に卒業を迎えます。

この間、教育内容の充実を図るために、教員数を増員し、臨床の産科医師による講義・演習を組み入れることや、保健師助産師看護師法の助産師養成所指定規則で規定されています分娩介助例数10例程度を達成できるよう実習施設の開拓、協力体制づくりをしてきました。また、3回生後期から4回生の助産看護実習に向けて、必要な診断能力や分娩介助などの技術を習得できるよう、マンツーマンでの指導を行い、きめ細やかな教育に努めてきました。学習効果を高めるために実習前には、様々な手順書・DVDなどの教材づくり、学生の持つ能力が実習で発揮できるように実習指導の手引きを作成し、実習施設の管理者や指導者との調整を行いました。

実習中においては、日中の指導には学生2名に教員1～2名を配置するとともに、学生が分娩介助させていただく産婦さんには教員も24時間体制で必要時指導にあたり、また、夜間時も学生さんへの対応ができる体制で実習を行っています。

実習では学生さんたちの妊・産・褥婦さんやそのご家族の意志を尊重した助産看護や、豊かな知識をもとに判断する思考過程を確認でき、これからの助産師としての活躍が楽しみです。まだまだ課題もたくさんある助産コースですが次年度も教育力を磨いて、学習支援をしていきたいと思います。

本学での助産コースの定員は、助産看護実習を受けていただける妊婦さんはもとより、実習施設のご協力により決定されます。今後も看護学部では、臨床現場のご理解を得るように努力をしてまいります。ご理解のほど、よろしくお願いします。

学生さんからのメッセージ

3回生では臨床現場での実習が多くあり、2回生の頃と比べて自分自身の成長を実感しています。後期は急性期・慢性期実習があり、これまで学内で学んだ基礎的な知識もふまえて、担当する患者さんの病気によって現れている症状や退院後の生活を考えて看護ケアを考え、実施し、患者さんが自分らしく生活できるように援助すること、また患者さんが手術によって受ける変化を捉えながら、これからの経過を予測することの大切さを学びました。時には先生や看護師さんから、不足点などの指摘をいただいたり、勉強するなかで自分自身の知識の足りなさを感じたりと、つらく感じるときもありますが、友人や家族にも支えられ、頑張ることができています。

3回生　内田 圭美　土居 千夏

この一年間を振り返って思うことは、「世界が広がった」ということです。初めての一人暮らし、今までと違う周囲の環境、聞き慣れない方言が飛び交う中、毎日が必死でした。また、アルバイトや趣味を通じて、高校生から50代の幅広い年齢層の方々と話す機会があり、多くのことを学びました。高校生と大学生の違いは、「学校の外にも自分の世界を作ることができること」だと思います。来年も悔いのないよう、積極的に「世界」を増やしていきたいです。

1回生　田岡　結子

〔ニュースレターの名前の意味〕fure-fure　学生さんを応援する気持ちを込めて、学生さんが、誰かを応援できるようになる願いを込めて、この名前を付けました。

ご意見、ご感想など、お寄せ下さい。　fure-fure-kango@cc.u-kochi.ac.jp